

前橋市社会福祉審議会 第3回高齢者福祉専門分科会 議事録

◆ 日 時 令和7年11月14日（金） 午後1時30分～午後2時57分

◆ 場 所 地域活動支援センターころも2階会議室

◆ <出席者> 12人（敬称略） ◎＝分科会長 ※職務代理

委員： 柳澤 和良 （群馬弁護士会）
五十嵐 洋 （群馬司法書士会）
結城 啓之 （前橋市歯科医師会）
北川 公啓 （前橋市社会福祉協議会）
◎後閑 千代壽 （前橋市老人クラブ連合会）
久保田 光明 （前橋市民生委員・児童委員連絡協議会）
小林 明 （群馬県老人福祉施設協議会 中毛ブロック）
高橋 慶次 （群馬県在宅福祉サービス事業者協会）
三俣 和哉 （群馬県地域密着型サービス連絡協議会）
※石川 麻衣 （群馬大学大学院）
柳川 右千夫 （群馬県老人保健施設協会）
高橋 豊 （群馬県介護支援専門員協会 前橋支部）

<欠席者> 2人

岩井 丈幸 （前橋市医師会）
町田 敬子 （群馬県看護協会）

<傍聴者> なし

◆ 議事内容 1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 第9期「まえばしスマイルプラン」の取組状況について

①介護保険事業の状況【資料1-1】

②目標への取組と評価【資料1-2】

(2) 第10期「まえばしスマイルプラン」の策定スケジュール【資料2-1】

(3) 臨時委員募集について【資料2-2】

(4) 各種調査（ニーズ調査、実態調査）の実施について【資料2-3】

(5) 特別養護老人ホーム入所申込状況調査の結果について【資料3】

(6) 保険者機能強化推進交付金等の集計結果について【資料4】

4 そ の 他

5 閉 会

◆ 配付資料

上記、資料の他、当日配布資料として、資料1-1に関する【参考資料①】、【参考資料②】

1 開 会

進行：長寿包括ケア課 大山係長

- ・群馬県看護協会から清水委員に代わり町田委員就任の報告
- ・前橋市社会福祉協議会から小林委員に代わり北川委員就任の報告

2 あいさつ

- ・後閑分科会長より

事前に資料を確認し、市および社協の関係者の尽力を感じるところである。前橋市の人口は減少傾向にあり、高齢社会は一層進行している。介護・医療分野の課題は大きく、対応は容易ではないと認識している。

委員各位の知恵をお借りし、住んでよかったと感じられる前橋市の実現を目指したい。より良いまちづくりとともに、高齢者が安心して暮らせる地域づくりを進めるため、皆様のお力添えを切に願うものである。

3 議 事

※議事開始前

- ・傍聴者がいないことの報告

(1) 第9期「まえばしスマイルプラン」の取組状況について ①介護保険事業の状況

- ・【資料1-1】に基づき事務局から説明

<質疑等>

【柳澤委員】

<資料 13 頁> 「認知症リスクが高い」、「東ブロック」の意味を確認したい。

【事務局】

東ブロックは、大胡・宮城・粕川・桂萱の4地域を指す。前橋市は全体を5ブロックに区分している。

「認知症リスクが高い」は、ニーズ調査結果において認知症関連項目が他地域より高かったことを示す表現である。実態把握ではなく、調査結果に基づく。

【柳澤委員】

「リスクが高い」という表現は、この地区に住むと認知症になると誤解される恐れがあり、適切ではない。

【柳川委員】

<資料 4 頁> 新規事業対象者が平成29年度から30年度にかけて概ね倍増している理由を確認したい。

【事務局】

総合事業が平成29年度に開始されたため、当初は制度が定着していなかったことが要因である。

【柳川委員】

資料に記載されている「介護給付費」という言葉の定義を確認したい。

【事務局】

介護給付費は、保険者が負担した分を指す。利用者の自己負担（1割または2割）を除いた、保険

者が支払った部分である。

【北川委員】

＜資料 14 頁＞ 訪問介護の令和 6 年度実績が計画値を上回り、利用回数・給付費が増加した要因として特徴的な出来事はあるか。

【事務局】

実際に訪問介護を行っている方の意見を伺いたい。北川委員、高橋豊委員に回答をお願いしたい。

【北川委員】

社協は市全体の約 10%のシェアで事業を実施しているが、利用回数の増加が見られる。要因としては、高齢化の進行と生活支援ニーズの増加がある。また、給付費の増加に伴いサービスが利用しやすくなっている。給付費全体では社協以外の事業者も含まれるため、その動向も把握する必要がある。

【高橋豊委員】

個人的な印象ではあるが、一人暮らし世帯や老老世帯が増加しており、そのため利用回数を増やさないと生活が成り立たない状況がある。

【小林委員】

＜資料 9 頁＞ 前橋市は在宅サービス給付月額が全国・群馬県平均より多い。＜資料 18 頁以降＞に「在宅利用」と「高齢者向け住まい等」の比較があるが、在宅サービス給付月額が高い理由は、有料老人ホームでの利用が全国平均より多いことが一因と考えられる。いわゆる囲い込みが影響しているのか、その確認のために資料 18 頁以降を提示しているのか。

【事務局】

添付資料では、高齢者向け住まいは利用者数は少ないが利用回数は多い傾向が見られる。最近では、同じ建物内で複数の事業者がサービスを提供するケースも見られる。国は「同一建物減算」を導入したが、高齢者向け住まいの利用傾向は変わらない。その結果、在宅サービス給付費が増加している一因とも考えられる。

②目標への取組と評価

・【資料 1-2】に基づき事務局から説明

＜質疑等＞

【柳澤委員】

＜資料 5 頁＞ 市民後見人養成講座修了者の活躍の場が不足している。法人後見の実施が有効とされるが、前橋市では社会福祉協議会で未実施。ワーキングでの検討状況を確認したい。

【北川委員】

法人後見は検討中だが、継続的な体制構築が課題となっている。財源、人材育成の問題で停滞している。

【事務局】

活躍の場不足は認識している。社会福祉協議会と連携し、全国動向を踏まえ検討を継続する。

【柳澤委員】

障壁は予算か。市の対応が必要ではないか。小規模自治体でも進めている例があるので、前向きに検討を求める。

【石川委員】

＜資料 8 頁・25 頁＞ 一般介護予防教室やスキルアップ研修の中間評価が「C」「D」と低い。利用者が少ないことが原因か。目標設定の妥当性やニーズ分析を行っているのか。今後の対応方針を確認したい。

【事務局】

マンパワー不足で教室型の拡充は困難である。従来の市会場型から、公民館や高齢者サロンへのアウトリーチ型に見直し中である。歩行測定会などを通じてニーズを把握し、目標値も再検討予定である。

【石川委員】

アウトリーチ型の展開は評価できる。併せて教室型でフレイル予防も検討すべきである。

(2) 第 10 期「まえばしスマイルプラン」の策定スケジュール

(3) 臨時委員募集について

(4) 各種調査（ニーズ調査、実態調査）の実施について

・【資料 2-1～2-3】に基づき事務局からまとめて説明

＜質疑等＞

なし

(5) 特別養護老人ホーム入所申込状況調査の結果について

・【資料 3】に基づき事務局から説明

＜質疑等＞

事務局から小林委員に意見をお願いしたい。

【小林委員】

特養入所条件が要介護 3 以上になる前後で申込数に大きな差があると考ええる。令和 5 年と令和 7 年を比較すると入所希望は減少している。特養が入りやすくなった一方、在宅介護では要介護 3 になるまで待てない状況も影響していると思われる。

(6) 保険者機能強化推進交付金等の集計結果について

・【資料 4】に基づき事務局から説明

＜質疑等＞

なし

4 その他

（事務局） 次回は来年 3 月の開催予定。来年度は 4 回開催予定。

5 閉 会

（吉野福祉部長） 来年度の第 10 期プラン策定に向け、分科会を 4 回開催予定である。

住み慣れた地域で生き生きと暮らせる社会の実現を目指し、皆様とともに取り組んでいきたい。
今後とも協力をお願いしたい。

以上